

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」を常に心におき、事業所、各職員共にそれぞれ寄り添いながら、日々を過ごさせて頂いています。	理念やコンセプトについては玄関、各ユニットに掲示し来訪者にも明示し、共有に努めている。全体会議や申し送り時には読み合わせを行い実践に繋げている。接遇に力を入れ取り組み、「声掛け、気持ちの良い挨拶」を支援の基本としてこの1、2年で職員の雰囲気が変わったと来訪者からもお褒めの言葉を頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際には、地域ボランティアの皆様のご協力を頂き、大変楽しい時間を過ごさせて頂いております。中には、顔なじみのボランティア様もおいでになり、より身近に感じて頂いているのかと思います。	区費を納め、地域の一員として活動している。地区の一斉清掃等に参加し、地域のお祭り際にはお神輿がホームまで回ってくる。4名の専門学校生の職場体験の受け入れがあり、傾聴中心に利用者との関わりを持っている。例年だと大学の吹奏楽部をはじめとして数多くのボランティアの来訪があり利用者も楽しみにしているが、今年は新型コロナウイルスの影響で自粛状態が続いている。新型コロナ収束後にはまた積極的な活動を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、法人、地域で行われる認知症に関する講習会の案内、パンフの配布等で参加への紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各棟交互に2ヶ月に1回行っている。施設内の見学、季節の飾り等を見て頂き普段の生活を感じて頂く。各参加者様には、新聞、写真、資料を用いて、日々の生活絵を紹介し、意見交換をしている。	2ヶ月に1回偶数月に、家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で開催している。現在は新型コロナウイルスの影響で開催が難しい状況が続いているが、メンバーに対しては会議開催案内をその都度お知らせすると共に、利用者状況や近況の報告、敬老会等の行事報告、お便り「さとし便り」等をお届けしホームの様子をお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご担当者様とは適時連絡をとりながら、取り組みの状況報告をしている。介護相談員の訪設の際は、意見交換をしています。	現在は新型コロナウイルスの影響で市長寿課への訪庁は控えているがメール等で連携を取り必要事項については報告している。地域包括支援センターとは利用者の状況等の連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行い、ほとんどの家族が立ち会っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に高い意識を持ちケアにあたっています。マニュアルを常備し、閲覧できる体制を整え、職員は何時でも確認ができます。安全確保の為玄関は施錠していますが、契約時の説明、面会時にご家族様からの了承を頂いております。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。ホームは車の通りの多い所に面しており安全確保のため玄関は施錠されている。離脱傾向の強い利用者が数名いるが、ホームの周りを散歩したり中庭に出て外気浴をしたりして対応している。転倒危惧のある方が若干名おられ家族と相談の上センサーマットを使用している。また、1時間に1回所在確認をし安全の確保に繋げている。3ヶ月に1回事例を挙げて施設内研修会を行い、尊厳の保持と拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛け、対応、あらゆる場面にて高い意識を持ちケアにあたっています。施設内研修を行い、防止に努めています。また、入浴時等各職員は必ず身体状況を確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」を利用されているご利用者がいる為、研修を行い理解を深めました。法人研修にも参加し情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまで、時間をかけご納得されてからの契約をしている。各書類の説明には時間をかけ、不安、疑問を解消しながら説明させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を用意し、ご意見を頂ける状況を確認しています。家族会開催時には、アンケートのご協力を頂いています。	ほとんどの利用者は意思表示の出来る状況にあり、職員目線ではなく利用者目線に立ち、きめ細かく話を伺い、思いを受け止めるよう心掛けている。例年開催している家族会や各行事、面会等も新型コロナウイルスの影響で難しい状況が続いているが、家族の面会が10月以降窓越しで再開され、事前に予約を頂き利用者とは話せるようになった。利用者の日々の様子は2ヶ月に1回発行されるお便り「さとび便り」でお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、引継ぎ、全体会議等職員が意見を述べやすい状況と機会を設けている。また、考え、意見を述べやすい環境作りに配慮をし、実際に職員の考えを尊重し提案を受け入れている。	月1回朝9時より2時間時間を取り全体ミーティングを行っている。法人からの連絡事項、行事予定、各種研修会、カンファレンス等を行い、活発な意見交換の中でケアの向上に繋げている。法人としての人事考課制度があり、職員は半年に1回自己目標を設定しそれに対し自己評価後、管理者による個人面談が行われスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に集中できるような休息時間の確保をしている。各職員のスキルを目指し、研修への参加、施設内研修においては講師を任せる等本人のやる気を尊重している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は適時行っており、お互いにスキルアップを目指している。各職員の力量は、管理者、各棟のリーダーからの考えも聞きながら、職員に合った仕事の割り振りを行っている。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修への参加は、個々の視野を広げるために役立つため積極的に参加を促し、適時勉強会を行っている。現在相互訪問は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様からの訴え、要望について傾聴させて頂く姿勢は崩さず、共感させて頂く。対応について気になる点については、気付いた時点で職員と話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに至るまでに話し合いを繰り返し、ご家族が望む生活をよく理解できる努力をしている。ご家族の訴え、意見を傾聴させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、どのような状況かお一人お一人全く違うので、時間をかけお話を十分にお聞きしながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念「共に歩む」を常に念頭におきながら、職員視点の介護にならないよう、日々指導をしている。人生の大先輩でもあるご利用者様の尊厳を何よりも重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大事なご家族をどのような想いで私達職員に託しているのか、各職員がそのお気持ちを察しながら丁寧にご家族様との関りを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごされてきた地域での馴染みの生活に少しでも近づけるよう、知人、友人、ご家族様との良い関係が続くよう、配慮、支援させて頂いています。	友人、知人の来訪があるが現在は新型コロナウイルスの影響で自粛が続いており、収束後にはまた案内を行い再開予定である。ホームの電話や手紙を定期的に出される利用者も数名おり、自立支援に繋げている。また、馴染みの美容院が2ヶ月に1回来訪し利用者といふれあう時間を持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士良い関係が築けるよう、必要に応じてテーブル席の配置替え等、細かい配慮もしながら、常に和やかに過ごして頂ける努力をしている。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽にお声がけや来設して頂けるような関係性を築けるよう努力をし、大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様それぞれの時代背景や、願い、想いが違う事を各職員が理解する努力をしている。想いを伝える事が難しいご利用者様に対しては、生活歴を把握し、ご家族様にも伺いながら把握に努めている。	何をやるにしても職員が決めるのではなく、利用者目線で「?(疑問符)」を付けどのようにしたいのか、散歩、飲み物等の問い掛けと提案を行い、利用者の意向を汲み取るよう心掛けている。難しい方については今までの傾向を参考に家族にも聞き希望に沿えるよう取り組んでいる。日々の気づいた言動等は介護記録に纏め、全員が確認しあい利用者の思いを受け止めるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは、望む生活にもつながる為、情報収集、意見交換をし各職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その身体状況、心身状況も変化がある為、その変化に気付けるよう、普段の生活を把握する努力を日々行っている。変化が見られる時には、即時対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の望む生活を実現していく為に、関係者と話し合いながら方向性を検討している。気持ちに添った計画を作成している。	全職員が利用者一人ひとりの状況を把握し全体ミーティングの中でモニタリングを行い、合わせて家族の意向も来訪時や電話にて伺い、管理者と計画作成担当者がプランを作成し日々の支援の中で実践している。状態が安定している場合は6ヶ月に1回の見直しを行い、変化が見られた時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良いケアを目指し、ご利用者様の現状を文書化し、訪問看護、訪問歯科、訪問ドクターと情報を共有し、日々の変化に対応し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な対応を取る為に、状況の変化に配慮している。また、ご家族様と細かい連絡をとるように努力をしている。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括、民生委員、地域住民様からの情報交換を行い、介護相談会においてはご利用者様からの会話の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、協力医療機関の説明を、懇切丁寧に行い、希望に添った受診支援を行っている。かかりつけ医との連携にも力を入れている。	入居前からのかかりつけ医利用の方は若干名で月1回の受診に家族がお連れしている。他の多くの利用者は協力医の月1回の往診と協力医への月1回の受診で対応している。また、週1回火曜日には訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理に合わせ医師との連携も取り24時間万全な医療体制が整えられている。歯科については訪問歯科の来訪が週1回あり、口腔ケアにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ご利用者様の現状を文書化し、週1回の訪問看護の際には活用をしている。状況の変化はその都度確認し記録に残している。必要時には、医師にも相談し24時間対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、入院訪問をしご本人様ご家族様とも連絡をとりながら意向を確認します。法人系列の医療機関、他医療機関の関係者とは密に連絡を取りながら、退院時カンファレンスを行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての意向の確認を致します。必要時期、早い段階から意思確認を行い、医療チームが組まれているので、納得されるまで丁寧に説明し、支援に取り組んでいます。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明し意向を確認の上同意を頂いている。終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を持ち、医師からの説明に合わせ改めて看取りの同意を頂き、訪問看護師とも個人として医療契約を結び、看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に5名の看取りを行い、家族より感謝の言葉を頂いている。看取り後は振り返りの機会を持ち、管理者を始め職員が他の利用者の心のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練においてAED使用した講習、実践はもとより、委員会による自設内研修を行います。緊急時の連絡体制も整備され、有事の際には個人判断せず必ず助けを呼ぶことを徹底しています。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練において本番さながらの避難訓練をします。法人全体で取り組み、職員個々が自覚をしています。また、塩尻市より最優秀事業所として、表彰されました。	年2回、防災訓練を実施している。そのうち1回は消防署員参加の下行い、消防車も出動し、消火訓練、通報訓練、AEDの使用訓練、利用者を玄関先まで移動しての避難訓練等を行っている。また、2ヶ月に1回、ホーム独自でミニ防災訓練を行い防災会社の参加も頂き防災機器の点検も合わせて行っている。防災意識を高め訓練を行っていることに対し、市より最優秀優良事業所賞の表彰を受け、また、法人内でも防災訓練の取り組みに対し優秀賞の表彰を頂き、更に一層、防災意識を高め取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の大先輩でもあるご利用者様に対し、敬う心を忘れません。全職員声掛け、挨拶は特に気を付けて取り組んでいます。	利用者一人ひとりの尊厳を守り人生の先輩に対する敬いの心を常に持ち、丁寧な言葉遣いに心掛けている。呼び掛けは基本的には苗字を「様」でお呼びしているが、利用者に合わせて呼び方もしている。入室の際には要件を伝え、ノックするよう徹底している。年2回、プライバシー保護等のホーム内研修を行い意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中々、ご自分の想いや、願いを表現できない方も増えています。情報シート等のツールも使用したり、表情や生活歴等からも探っていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを最優先にし、気持ちを伺いながら、職員が見守ります。体操や、レク等団体で行う時には、無理強いせずにお誘いします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ただあるものを着るのではなく、自分で選べる方には選んで頂き、そうでない方には、職員がコーディネートします。身なりを整え鏡を見て頂くよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜が採れる時には一緒に収穫し、食卓にだします。ジャガイモや玉ねぎの皮を剥く等、出来る事を楽しみながらやって頂きます。また、お片付けテーブルを拭く等も楽しんで頂いています。	温かい物は温かいうちに提供することを基本に、美味しく食べていただくよう取り組んでいる。ほとんどの利用者は自力で食事が出来る状況である。献立は冷蔵庫の中の食材を見て職員が調理している。365日、調理ファイルに記録を残し、参考にすると共に前日とダブルチェック気をつけている。利用者のお手伝いは食器洗い、野菜の下処理等、可能な範囲で参加していただいている。正月、クリスマス、雛祭り、七夕等、平均するとほぼ月1回は季節感が味わえるよう楽しい食事を演出している。	

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前午後のお茶、食事での水分量を一日毎で把握。食形態は個別対応しており、摂取、飲水しやすい状況での提供。必要時、トロミやゼリー等で提供。医師、看護師、歯科ドクターからの連携あり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別対応しており、毎食後口腔ケアを必ず行っています。訪問歯科ドクターからは、毎週各利用者様の状況の報告を受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にかかなりの違いがあります。尿意、便意ある方はその状況での対応や、排尿パターンを調べてその方のリズムにあった声掛け、全介助の方は定時交換の他に、表情や様子から適時行っています。	全利用者が何らかの介助が必要な状況で、リハビリパンツとパットを使用している。排泄表を用いたパターンを把握しそれに合わせてトイレに誘導している。合わせて起床時、食後、就寝時には定時誘導を行い、スムーズな排泄に繋げている。排便促進のため、お茶、コーヒー、乳酸飲料等、1日の水分摂取目標を1,000ccとし取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	違いが大きくありますが、体操をしたり一緒に歩いたり、楽しく体を動かせる努力をしています。排便コントロールは、医師確認の下、体に合ったコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回を予定していますが、必ずバイタルチェックを行い、その日の体調にも合わせます。気分の乗らない日には、無理強いはせず、入浴日をずらす等対応しています。	全利用者が介助を必要とする状況となっている。毎週火曜日と金曜日の午前中に入浴を行っている。現在入浴拒否の方もなく、週2回の入浴が出来る。毎日、「入浴剤」「ゆず湯」「菖蒲湯」「みかん湯」等を用い、季節のお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に自由に休んで頂いています。居室で、ホールで、テーブルと様々です。夜は皆様居室にて休まれますが、夜間ホールに出て来られたご利用者様には、お気持ちをお聞きします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は徹底しています。また、誤薬を防止する為、内服までにダブルチェックを必ず行います。処方箋ファイルにて、目的、副作用等随時確認をし、変化がある時、医師、看護師に連絡します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、生活の中でやって来られた事を役割として分担してもらいます。職員も感謝の言葉を忘れません。レク、行事、クッキー、たこ焼き、餃子作り等、楽しめる事はたくさんあり、気分転換に役立っています。		

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ぶどう狩り、紅葉狩り、お散歩、随所でお出かけをしています。ご家族様にも協力頂き、外出できる方は思い思い自由に外出、外泊されています。身体的に難しい方は、庭に出たり、近くをお散歩します。外出が出来ない現在は、施設内にて楽しんで頂ける方法を見つけています。	外出時、自力歩行の方が三分の一弱、杖・シルバーカー使用の方が半数、車いす使用の方が数名という状況である。春の花見から秋の紅葉見物まで年間の外出計画があるが、今年は新型コロナウイルスの影響で、全て行えていないという状況が続いている。そのような中、日常的にはホームの周りを散歩したり中庭で日光浴を楽しんだりしている。また、ホーム内行事として敬老会や運動会、夏祭り等を行い、職員も含め全員で楽しい時間を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全て、施設で管理していますが、ご利用者様によっては手元にて最小限の金額を管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の意向も確認し、ご本人様の要望に添いながら、対応しています。電話を掛けて頂いたり、こちらから家族に電話をかけたり、手紙のやり取りも自由にして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、花や、タペストリー等の飾り付けをし、温度・湿度調整は欠かさず行い、過ごしやすい環境に整えています。新聞、雑誌も揃え思い思いに過ごせる空間作りをしています。施設内の様子は、発行新聞や、日々のお写真を郵送しております。	一日、3回、掃除を行うというリビングとホールは清潔感が漂い、天井も高く、開放感がある。また、季節の花や利用者や職員の手造りによるオブジェなどの飾り付けが施され、季節感が感じられる。また、利用者にお手伝いを頂き張り替えた人工芝の広い中庭には、椅子、テーブル等が置かれ、天気の良い日には日光浴やお茶を楽しんでいる。合わせて庭には家庭菜園があり、夏野菜の栽培にも勤しみ楽しい日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況に応じて、椅子の配置替えや、食事席にも配慮しています。気の合った方向士過ごせるような、テーブルやソファへの声掛けもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年馴染んできた家財や配置を心がけています。ですが、状況によりそれが危険リスクの高い要因になる事もあるので、その時には、ご本人、家族様と話しながら対応しています。	大きなクローゼットと洗面台が設置された各居室は掃除が行き届き清潔感が漂っている。家族と相談の上、ご本人の希望に合わせたタンス、衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等が持ち込まれ、思い思いの生活を送っている。空調はエアコンで快適に制御されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誤食、転倒あらゆる危険リスクを回避する為、内部の清掃を強化し、危険物の排除に気を配ります。自立歩行、補助用具使用の移動には、足元の確保は必至です。		